

台湾南投県と 友好交流の促進を確認

「交流拠点都市」の創生を目的に交流人口の拡大の取り組みを進めるなかで、東洋屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」や日本最大のカルスト台地「秋吉台」などの卓越した観光資源を有する美祢市にとって、観光客のさらなる誘致活動は非常に重要であり、特にアジア時代に対する外客誘致の更なる取り組み強化が必要であることから、日本との経済関係にも深い結びつきのある台湾を11月15日~~火~~から18日~~金~~に訪問しました。

訪問団は各種団体との交流による効果的な観光宣伝活動を行い、交流関係のある台北駐福岡経済文化弁事所を通じて南投県との友好交流に関し、李南投県長と相互連携を深めることを積極的に進めることを確認した「友好交流の促進に関する確認書」の調印を行いました。また、李南投県長から今後台湾との交流を更に深め、相互に連携した取り組みを進めるため、観光資源に恵まれた南投県中部にある「水里郷」の江郷長を紹介いただきました。

「水里郷」は、台湾最大の淡水湖である「日月潭」を中心とした台湾十二景のなかでも最も有名な風景区「日月潭国立風景区」に属し、このエリアの玄関口となっています。また、文化的伝統のある窯業が盛んで、山の地形に沿って築かれた土レンガの窯は、蛇窯と呼ばれ、水里蛇窯陶芸文化園区を形成するなど希有な観光資源を持ったところです。

4日間にわたる台湾訪問により、南投県を足掛かりとして、今後の美祢市と台湾との交流を大きく前進させることができたことは、非常に意義のある結果を収めることができました。



確認書の内容

- 1 相互の友好関係発展のため観光、経済などの分野における交流を通じて、さらなる発展と互いの理解と連携を深めることを積極的に支援する。
- 2 両地域の観光関連機関及び団体、業界関係者の交流の促進を積極的に支援する。

◆財交流協会台北事務所

台湾からの観光客誘致を官民一体となって一層の交流活動を推進し、今後とも、日台の友好、美祢市と台湾との更なる友好親善を深めるため、ご支援をお願いしました。

今井代表から日本の自治体が台湾での観光客誘致活動を展開しており、激戦区であるので、今回の美祢市の取り組みのように先ず台湾に来ることが大事であり、効果的な交流活動となるとアドバイスいただきました。

※財交流協会台北事務所は、公式に国交のない台湾(中華民国)との実務関係を処理するため、外務省及び経済産業省により認可された日本の対台湾窓口機関である。



◆台湾貿易センター

今後の物流交流において、更なる前進した関係を進めていくため、台湾貿易センターを訪問し、情報収集、意見交換を行いました。



※台湾貿易センター(TAITRA)は、1970年に台湾の対外貿易促進を目的に、台湾政府と業界団体の支援により設立され非営利的貿易振興機構(日本のジェトロに相当)。

◆台湾観光協会

これからは、東アジアの時代であり、両国の緊密な関係で世界をリードしていく必要があると感じており、友好的な関係を築き上げ、次の世代にもつなげていけるよう相互の取り組みを協議しました。今後、台湾文の秋吉台観光パンフなど作成し、相互間の観光協会を通じて各旅行社へ提示する取り組みや秋吉台観光のスケジュールを組んで、メディア、旅行関係業社を通じて宣伝を行うなどの取組みについて実りある話を進めることができました。



◆外交部亞東関係協会

東日本大震災における台湾のご支援に對して他国に先駆けご支援いただき、日本国民として台湾の皆さんにお礼申し上げました。今回の訪問にあたり、台北駐福岡経済文化弁事所 曾所長はじめ、特に外交部の皆さまの多大なご尽力を頂いておりますが、今後とも、ますます両国の友好的な関係が築けるようご支援をお願いいたしました。



※台湾(中華民国)の対日窓口機関で、台北駐日経済文化代表所(東京、大阪、福岡に弁事所設置)の台湾本部にあたる。日本との国交がないため非政府機関であるが、実質的には中華民国外交部の所管である。日本側のカウンターパートナーとしては、財団法人交流協会となる。



◆南投県の概要

南投県は、面積4106.436km²、人口53万人、台湾中部の県。台湾では唯一の内陸県です。

南投という地名はかつてここに設けられていた平埔族(平地原住民)の集落「ラムタウ」社に由来します。

1999年に台湾中部を襲った台湾中部大震災(921大地震)の際には壊滅的な被害を受けましたが、現在は復旧しており、以前の活気を取り戻しています。

県内の観光地としては台湾最高峰の玉山や風景区の日月潭などがよく知られています。また、気候に恵まれ、土壤も肥沃なことから、付近一帯は農業がとても盛んであり、農産品は豊富で、稻作をはじめ、烏龍茶、ライチ、ショウガ、パイナップル、バナナ、リュウガンや文旦が特産品に挙げられます。

◆南投県水里郷の概要

南投県水里郷は、面積97.224km²、人口2万1千人、南投県中部の郷で、山岳部に入る要所となっています。

郷内には集集線(鉄道)が東西に走り、日月潭へ向かうバスが発着しています。

四方を山に囲まれ、陳有蘭渓や水里渓、濁水渓などの川が流れており、気候も温和で、海拔1,000m付近に多い茶畠は玉山茶区に属し高く評価されています。また、青梅も品質が良く、主に日本へ輸出されています。

陶芸の町としても知られ、「水里蛇窯文化園区」には日本統治時代の1927(昭和2)年に造られた蛇窯(登り窯)があり、1999年の大地震で倒壊しましたが、現在は再建されています。

かつて林業の町として栄えたところで、製材所や貯木池のほか、日本式の木造家屋も残っています。